## 教師の言葉かけの種類による意図の違いと 児童・生徒の認知との関連

○角昌平・井上弥 (広島大学大学院教育学研究科)

## 問題と目的

西口(2000)は問題場面における教師の言葉かけについて研究している。教師は問題場面に即した適切な言葉かけを行うが、その言葉かけを児童がどのように受け取るのかは明らかにされていない。しかし、言葉かけの意図と児童の言葉かけに対する認知のずれがある場合、その後の教師と児童の関係にも影響を与えると考えられる。そこで、本研究では、教師の児童への言葉かけの意図と児童の言葉かけの認知との関係を検討する。

## 方法

対象者:教育実習を経験した大学生93名。

問題場面:西口(2000)の10の問題場面と各々の場面でよく使われる言葉かけを用いた。場面は、(A)内気・引っ込み思案な児童が下を向いている,(B)従業中の落書き,(C)児童がおしゃべりしている,(D)教師への直接的反抗,(E)怠慢な清掃活動,(F)児童がけんかをしている,(G)休み時間に児童が孤立してしまっている,(H)児童が教師に依存している,(I)危険を伴うふざけあい,(J)授業を妨げる落ち着きない行為であった。質問紙:10言葉かけ場面それぞれについて,教師の言葉かけの意図(正しい方向への指導,受容的関わり,問題解決の状況把握)3項目と児童の言

葉かけの認知(先生は正しい, うれしい, 先生は 信頼できる, 悲しい) 4項目について評定させた。

## 結果と考察

場面ごとに、3つの意図と4つの認知の間の相関を求めたものが、表1である。この表からわかるように、「正しい方向への指導」意図は、Cを除く9つの場面で、「先生は正しい」認知と比較的高い有意な相関を示した。また、F、H、I、Jでは、「先生は信頼できる」認知とも有意な相関を示した。「受容的な関わり」意図は、Fを除く9つの場

面で、「うれしい」認知と比較的高い有意な相関を示した。また、B、Cを除く8つの場面でも「先生は信頼できる」認知と有意な相関を示した。さらに、D、F、H、Jでは「先生は正しい」認知とも低い相関を示した。「問題解決の状況把握」意図は、B、F、I、Jにおいて「先生は正しい」認知と「先生は信頼できる」認知に共通して有意な相関を示

以上より、場面によって違いはあるものの教師の正しい方向への指導、受容的関わり、問題解決の状況把握の3つのどの意図に対しても、児童は、先生は正しい、信頼できると認知すること、さらに受容的な関わり意図では、児童はうれしいと認知していることが明らかとなった。

表 1 場面ごとの教師の意図と児童の認知の相関

した。

	_	場面									
教師の意図	児童の認知	А	В	С	D	Е	F	G	Н	I	J
正しい方向への 指導	先生は正しい	.281 **	.278 **	.041	.235 *	.299 **	.343 **	.276 **	.304 **	.338 **	.406 **
	うれしい	.042	.013	132	107	117	.161	.017	.058	006	.239 *
	先生は信頼できる	.015	.157	.014	.209 *	.089	.367 **	.061	.225 **	.229 **	.411 **
	悲しい	047	029	.055	005	054	.068	086	.051	.151	199
受容的関わり	先生は正しい	.073	.066	.171	.269 **	.176	.254 *	.166	.241 *	.138	.439 **
	うれしい	.254 *	.208 *	.233 *	.229 *	.294 **	.096	.246 *	.282 *	.446 **	.511 **
	先生は信頼できる	.310 **	.201	.146	.272 **	.348 **	.312 **	.244 *	.292 **	.299 **	.568 **
	悲しい	228 *	156	.129	152	.123	.162	.106	.010	080	067
問題解決の状況 把握	先生は正しい	.176	.295 **	.054	.152	.194	.234 *	.300 **	.199	.267 *	.247 *
	うれしい	007	.157	.019	039	.047	.152	.041	.091	.007	.216 *
	先生は信頼できる	.068	.237 *	.142	.093	.134	.330 **	.073	.264 *	.236 *	.310 **
	悲しい	076	124	.106	.022	.142	034	021	.015	.090	.037

<sup>\*:</sup> p<.05, \*\*: p<.01